



### 平成29年度総会終わり、

### 案件すべて承認される

苫小牧山岳会総会は4月1日(土)午後4時から苫小牧文化交流センター(アイビープラザ)において平成28年度事業報告・決算報告、平成29年度事業計画(案)・予算計画(案)が審議された。



開催に際し、林会長から「28年度事業を振り返ると台風等の影響もあり会の運営(山行)に大きな影響がありました。その中で山行から遠ざかっている会員も参加できる日帰りの低山登山を実施してき

ました。29年度も現行のパワーにあった計画をして安全登山を最優先で行事を進めたいと思っています。今回の総会はいつもとより時間を取ってありますので報告事項や決議事項について十分に審議をして頂きたい」との話があり、中川議長選出後、報告と新年度の案の審議が始まった。今回、一番大きな審議事項は、会則の大幅な改正とチロロ小屋の今後の取り扱いについてである。その会則改訂部分で、文面の解釈についても出たことについては、今後理事会等で話し合われる点になるところだろう。チロロ小屋については、平成11年4月から借り受け、18年に建物の無償譲渡を受けている。その間、日高町が、山日高町と海日高町が合併をし、譲渡取り決め事項についても疑義が起きたときに話し合う事になってはいたが、今後の具体策が何ら話し合われていないことから町に出向き話し合いをもっている。その中で、苫小牧山岳会としての考え方を書面提出してほしい旨、町担当者の希望があり、今回、それを受けた回答書として提出したが、町側の考え方もあり、再指導で要望書という形で提出(総会添付書類)となった。建物の取り壊しは、譲渡を受けたものが更地にして戻すことが一般的だ。町としても「それが一般的ですよね」という考え方も漏らしている。そのため、確かに会としてスタートは遅かった

が、今後の対策として、28年度からチロロ小屋の特別会計を設定して準備を始めた。今後、何らかの形で町から回答が示されるだろうが、それがどのような回答であっても会として対処出来るようにしていく。

総会は、審議時間をいつもの倍の2時間が取られたが、大きな課題で説明にも時間を要し、それでも足りないと感じた部分もあった。総会終了後、直ちに懇親会会場の「中善」に移動し、山田さんの乾杯で宴が始まる。総会の時間とは違い、あつと言っ間の2時間であった。最後、追分からいっ



も駆けつけてくれる会友の菊池弘さんの音頭で乾杯して宴を終える。

《事業報告》

28年度最後の事業、3月5日(日)支笏湖美笛側にある三角点名「丹鳴尾」に会員7名が参加した。天候が良く、見晴らしがきいて最高だったが、風が強く、ゆっくり出来なかったのが残念だった。山頂から支笏湖の山々の展望を楽しみ、3時には帰宅するという、年度最後の山行だった。



《例会予定》開始時間18:30

- ◆4月9日(日) 4/23 ワイスホルン(スキー&スノーシュー)ツアーの打ち合わせ
- 5/3~4 春山合宿打ち合わせ
- ◆5月14日(日) 5/21(日) 樽前山清掃登山

《事業予定》

- ◆4月23日(日) ワイスホルン(スキー&スノーシュー) 担当:新井孝、松原
- ◆5月21日(日) 樽前山清掃登山 担当:鈴木統、林昇
- ◆5月3~4日春山合宿 白樺山~シヤクナゲ岳~チセヌプリ~ニトヌプリ~五色温泉14:00(新見温泉車回収)~苫小牧19:30 担当:松原、林昇

《春山合宿(案)》

3日苫小牧6:00~五色温泉車回送~新見温泉~白樺山~シヤクナゲ岳付近~4日シヤクナゲ岳付近~チセヌプリ~ニトヌプリ~五色温泉14:00(新見温泉車回収)~苫小牧19:30  
以上が案ですが、参加者により臨機応変のコース対応を考えています。日帰り希望者があれば、相談下さい。(担当者談)

★お知らせ★

会員の鈴木健児さんが、夏冬の指導員講習及び各検定をクリアーし、スポーツ指導員に合格しました。これからの活躍を期待しましょう。おめでとうございます。

《道岳連便り》

H29年度日高登山研修所開きの案内  
期日 4月15日(土)~16日(日)  
会費...4000円  
16日の研修には、指導員以外の一般会

員も参加できます。指導員は、登録更新の義務研修も兼ねています。

5月6日~7日夏山講習会「パート1」暑寒別岳」スキー・スノーシューOK。  
参加費...11000円(道岳連会員)

《連絡事項》

山行車両借り上げ燃料単価130円(3/22付)

《リンク・ノート》

最近GPS捜査で裁判所の事前許可が必要との判決が話題になったが、GPSは我々の生活にもすっかり溶け込んできている。よく知られているのは車載のカーナビだ。山屋が使うGPSも進化し、液晶画面に地形図と現在位置を表示するようになり、また、最近スマホのアプリを利用して大きな画面でGPSの軌道が見られるようになった。視界不良でも表示画面を見ながら目的地にたどり着くことが可能になり、山歩きも大きく様変わりした。誰でもルートを間違えることなく現在位置を確認しながら歩けると言うことだ。GPSは、日本語訳で「全地球測位網」と言うが、元々は米国の軍事目的の衛星で、世界のどこにいても常に4つ以上の衛星から位置と時間情報を発信している。現在24機が上空20,200kmを周回している。とは言え、便利と危険は背中合わせ。現地判断や不測の事態を考えるとGPSは機械であり、それだけを持って行動することは危険だ。基本は地図と磁石の携帯。その確認があつてこそ安全な登山が出来ることを忘れてはいけないと思うのである。